

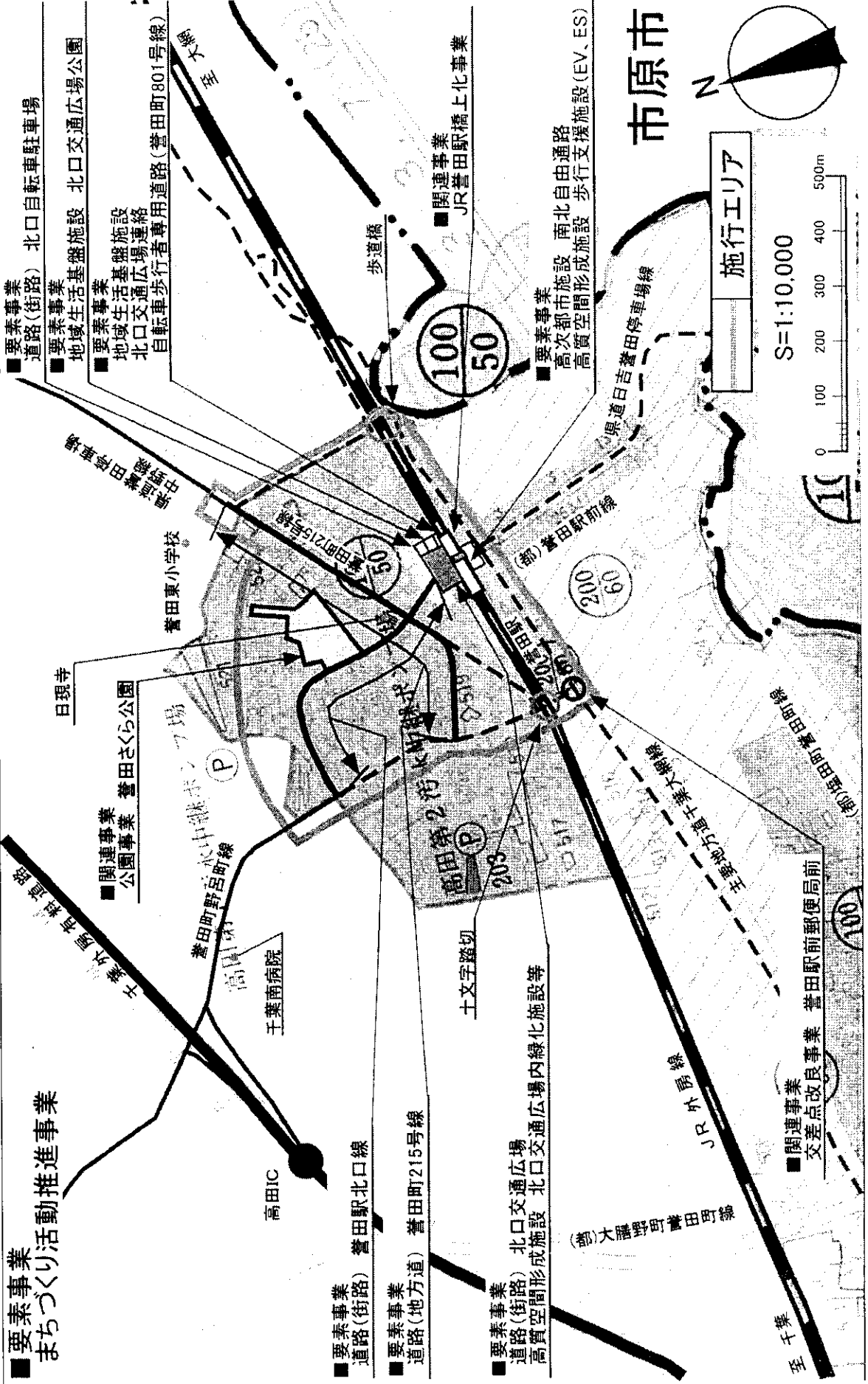
# まちづくり総合支援事業 新規採択事業評価チェックシート（案）

地区名	誉田駅周辺地区	市町村名	千葉市								
採択年度	平成15年度	地区面積	29.6 ha								
事業計画	計画期間	平成15年度～平成19年度									
	事業費（国費）	6,572百万円（3,119百万円）									
<事業採択の前提条件を確認するための指標>											
費用対効果分析	要素事業毎の費用便益比（B/C）の要件	満たす 満たさない									
円滑な事業執行の環境	事業に対する地元の熟度が高いなど	有 無									
<事業の効果や必要性を評価するための指標>											
<b>（1）事業対象地区の状況と地域課題</b>											
<p>■現状に至るまちづくりの経緯、地域の潜在力や新しい地域の動き等を把握し、事業対象地区についての現状分析が行われている</p> <p>&lt;分析結果詳細&gt; 市内JR18駅の中で唯一の地平駅であり、改札口が南口のみのため、北側市街地からの駅利用が不便である。また、スプロール市街地のため狭い道路が多く、幹線道路には歩道がなく、道路等の基盤整備が必要な地区である。過去に旧住都公団による土地区画整理事業の可能性が検討されてきたが、社会状況の変化等により中止されている。地区の住民は駅、自由通路及び道路の整備を強く要望しており、駅の橋上化・南北自由通路整備と合わせて、地区の骨格的な道路整備等を進める必要がある。</p>											
<p>■特定重要課題につながる地域の課題についての社会的、構造的な分析がなされている</p> <p>&lt;分析結果詳細&gt; 改札が南口しかなく、交通結節機能が南口駅前広場に集中しているため、北側市街地からバスや徒歩による駅へのアクセスが約600mもの区間で分断され不便である。約280本/日ものバスが発着しているが、面積約1,100㎡の狭い南口駅前広場のため交通動線が輻輳している。また、JR外房線十文字踏切に道路が集中する交通網のため交通渋滞が著しく、狭い生活道路に通過交通が流入している。誉田町215号線等の幹線道路には歩道がないため、歩行者・自転車の安全性も損なわれている。このため、駅の橋上化・南北自由通路・北口交通広場・アクセス道路の整備による交通結節機能確保と合わせて、地域の交通円滑化を図るための道路整備が急務である。</p>											
<p>&lt;選ばれた特定重要課題（該当するものに○）&gt;</p> <table border="1"> <tr> <td>中心市街地の活性化</td> <td>新都市機能の導入</td> </tr> <tr> <td>防災、環境等問題のある地域の改善</td> <td>人口定着・交流機能強化による均衡のとれた地域振興</td> </tr> <tr> <td>新しい都市拠点の整備</td> <td>広域的な連携に基づく地域活性化</td> </tr> <tr> <td>水・緑・文化・歴史空間の整備</td> <td>○ 交通網の整備改善等に伴う地域づくり</td> </tr> </table>				中心市街地の活性化	新都市機能の導入	防災、環境等問題のある地域の改善	人口定着・交流機能強化による均衡のとれた地域振興	新しい都市拠点の整備	広域的な連携に基づく地域活性化	水・緑・文化・歴史空間の整備	○ 交通網の整備改善等に伴う地域づくり
中心市街地の活性化	新都市機能の導入										
防災、環境等問題のある地域の改善	人口定着・交流機能強化による均衡のとれた地域振興										
新しい都市拠点の整備	広域的な連携に基づく地域活性化										
水・緑・文化・歴史空間の整備	○ 交通網の整備改善等に伴う地域づくり										
<p>■数値指標により地域の課題を点検できる</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>&lt;数値指標&gt;</th> <th>&lt;現状・目標など&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北側地区から駅までの所要時間</td> <td>徒歩：現状12分⇒6分（駅まで約800m地点から） バス：21分⇒8分（駅から2km地点から）</td> </tr> <tr> <td>誉田町215号線の混雑度</td> <td>現状1.5⇒整備後1.0</td> </tr> </tbody> </table>				<数値指標>	<現状・目標など>	北側地区から駅までの所要時間	徒歩：現状12分⇒6分（駅まで約800m地点から） バス：21分⇒8分（駅から2km地点から）	誉田町215号線の混雑度	現状1.5⇒整備後1.0		
<数値指標>	<現状・目標など>										
北側地区から駅までの所要時間	徒歩：現状12分⇒6分（駅まで約800m地点から） バス：21分⇒8分（駅から2km地点から）										
誉田町215号線の混雑度	現状1.5⇒整備後1.0										
<b>（2）目標とする地域像</b>											
<p>■特定重要課題が解決された場合の地区の姿を具体的に想定できる</p> <p>&lt;想定される姿の具体内容&gt; ・駅北側市街地から誉田駅への直接のアクセス経路が確保され、駅利用者の利便性が向上する。 ・北口交通広場への交通機能分担により、南口駅前広場におけるバス、車の輻輳が改善し歩道整備が可能となる。 ・十文字踏切での交通渋滞が緩和するとともに、狭い生活道路の通過交通が削減され、地域の安全性が高まる。</p>											
<p>■計画期間内において段階毎に得られる事業効果について明確に示すことができる</p> <table border="1"> <tr> <th>採択後年次</th> <th>&lt;段階的な事業効果の具体内容&gt;</th> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>駅の橋上化と南北自由通路の整備及び誉田町215号線現道から駅へのアクセスが確保され、歩行者・自転車・自動車による駅北口への交通結節機能が確保される。</td> </tr> </table>				採択後年次	<段階的な事業効果の具体内容>	3年	駅の橋上化と南北自由通路の整備及び誉田町215号線現道から駅へのアクセスが確保され、歩行者・自転車・自動車による駅北口への交通結節機能が確保される。				
採択後年次	<段階的な事業効果の具体内容>										
3年	駅の橋上化と南北自由通路の整備及び誉田町215号線現道から駅へのアクセスが確保され、歩行者・自転車・自動車による駅北口への交通結節機能が確保される。										

5年	<p>荻田町 215 号線 1 丁区の整備により、北口交通広場への一部バスアクセスが可能となる。十文字踏切の交通渋滞が緩和する。地区内の現道から荻田さくら公園、荻田駅北口線経由での駅アクセスが可能となる。</p>	
<p><b>■民間のまちづくり活動の推進や住民等との連携など、事業完了後の継続的なまちづくりの方向性を示すことができる</b></p>		
<p>&lt;継続的まちづくりの方向の具体内容&gt;  「荻田駅周辺まちづくり協議会」において、北口交通広場に必要施設、交通広場レイアウト、デザイン等について検討しており、今後、北口交通広場公園の使い方、住民による管理方法等を検討する予定である。これらの活動により、住民との連携による施設管理、地域のまちづくりを推進する。</p>		
<p><b>(3) 特定重要課題を解決する事業計画の考え方</b></p>		
<p><b>■上位計画等に位置付けられている</b></p>		
<p>&lt;上位計画での地区の位置付けの具体内容&gt;  ・荻田駅周辺地区は、「千葉市新総合ビジョン」(2015年目標)において、市民の日常生活の核となる地域拠点に位置付けられている。  ・本地区は、「千葉市交通バリアフリー基本構想」(平成13年11月)における「重点整備地区」に位置付けられている。</p>		
<p><b>■事業計画の策定に当たり、住民の合意形成等に努めている</b></p>		
<p>&lt;住民合意形成等の経緯の具体内容&gt;  ・平成元年度、6年度、10年度に住民アンケート調査を実施し整備要望を把握。  ・平成13年度に整備計画の地元説明会を4回開催。その後「荻田駅周辺まちづくり協議会」を5回開催。道路検討会を3回開催。  ・「まちづくりニュース」を平成13年度から6回作成し、住民に配布し、合意形成に努めている。</p>		
<p><b>■要素事業の選定理由や戦略的な組み合わせの意図が、特定重要課題との関連で明確である</b></p>		
<要素事業の具体名>	<関連する特定重要課題>	<選定理由・組み合わせ意図>
道路、地域生活基盤(歩歩専用道)	交通網の整備改善等に伴う地域づくり	北側市街地から駅北口への交通結節機能の確保。十文字踏切等での交通渋滞の緩和。生活道路の通過交通排除。
高質空間形成施設(緑化施設等)、地域生活基盤施設(北口交通広場公園)	交通網の整備改善等に伴う地域づくり	緑の都市軸形成等の地域の拠点性向上。地域住民の参画によるまちづくりの機運醸成。
高次都市施設(南北自由通路)、高質空間形成施設(歩行支援施設)、道路	交通網の整備改善等に伴う地域づくり	「千葉市交通バリアフリー基本構想」に基づく、特定経路のバリアフリー化。南北地域間の連絡強化。
<p><b>(4) 総合的な事業展開による効果</b></p>		
<p><b>■要素事業間又は要素事業と関連事業間の相乗効果や波及効果が見込まれる</b></p>		
<p>&lt;相乗効果等の具体内容&gt;  ・荻田駅北側市街地の交通結節機能の確保、幹線道路の交通渋滞の緩和、住宅地内への通過交通削減による居住環境の安全性確保により、地域の利便性、快適性・防災性が飛躍的に向上する。  ・道路、北口交通広場、北口交通広場公園の連続した景観整備により、緑の都市軸形成を図り、地域の拠点性、シンボル性が高まる。  ・連続したバリアフリー経路が整備される。</p>		
<p><b>■産業政策等、他の施策との連携による効果が見込まれる</b></p>		
<p>&lt;他施策との連携効果の具体内容&gt;  ・北口交通広場整備により沿道土地利用の更新が見込まれ、店舗立地等が進むことで住民の生活利便性が向上する。  ・自由通路等の整備により駅南口の既存商店街への徒歩、自転車によるアクセスが便利になり、商業活動の活性化が期待される。  ・荻田さくら公園へのアクセス道路が整備され、公園利用の増加、災害時の避難場所として防災性の向上が見込まれる。</p>		
<p><b>■ハード事業とソフト事業の一体的な実施により、事業効果が一層高められる</b></p>		
<p>&lt;ハード・ソフトの連携効果の具体内容&gt;  ・「荻田駅周辺まちづくり協議会」において、北口交通広場、北口交通広場公園等の整備内容や整備後の住民参加による緑の管理方法等を検討しているところである。これにより、交通広場や公園内において、住民が整備し管理する花壇等の事業を検討する予定であり、ハード整備を契機として、住民主体のまちづくりにつなげ、より効果を高めるための活動を予定している。</p>		

整備方針概要図

■要素事業  
まちづくり活動推進事業



■要素事業  
道路(街路) 北口自転車駐車場

■要素事業  
地域生活基盤施設 北口交通広場公園

■要素事業  
地域生活基盤施設  
北口交通広場連絡  
自転車歩行者専用道路(菅田町801号線)

■関連事業  
公園事業 菅田さくら公園

■関連事業  
公園事業 菅田さくら公園

■要素事業  
道路(街路) 菅田北口線

■要素事業  
道路(地方道) 菅田町215号線

■要素事業  
道路(街路) 北口交通広場  
高質空間形成施設 北口交通広場内緑化施設等

■関連事業  
JR菅田駅橋上北事業

■要素事業  
高次都市施設 南北自由通路  
高質空間形成施設 歩行者支援施設(EV, ES)

■関連事業  
交差点改良事業 菅田駅前郵便局前

施工エリア

S=1:10,000

0 100 200 300 400 500m

市原市

